

《担当者名》講師 / 早坂 敬明  
 教授 / 平野 剛      講師 / 櫻田 涉      講師 / 高村 茂生

【概要】

近年、薬物治療の安全性と有効性の確保を目的として、「医薬品の適正使用」に対する認識が急速に高まっている。このような状況の中で薬剤師を取り巻く環境も大きく変化し、薬剤師がその専門性を発揮しながら医療チームの一員としての役割を担うことが社会的に求められている。またそのために取り組むべき業務も多岐にわたっている。

本講義では、「注射剤調剤」、「患者への服薬指導」、「医療の安全管理」に関する基本的事項を修得する。さらに、これらの業務を通して、これからの患者指向の医療において、薬剤師がその職能を発揮し、かつ実践していくための応用的知識について学ぶ。

【学修目標】

注射剤、輸液の調製ならびに高カロリー輸液の調製を適正に行うために、注射剤などに関する基本的知識を概説できる。  
 安心安全の医療を実践するために、医療過誤を引き起こさない態度を身につけ、また医療安全と医療事故防止の基本的知識を概説できる。

医療チームの一員である薬剤師として、病院や薬局において患者に対して適切な服薬指導を行うための基本的知識を概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	注射剤調剤 ・処方設計と薬物療法の実践 教科書：下 p139～163	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(3)- -5	平野 剛
2 ) 3	注射剤調剤 ・処方設計と薬物療法の実践 教科書：下 p172～191	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(3)- -6	早坂 敬明
4 ) 5	注射剤調剤 ・処方設計と薬物療法の実践 教科書：下 p147	代表的な注射剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -5	平野 剛
6	注射剤調剤 ・処方せんに基づく医薬品の調製 ・医薬品の供給と管理 教科書：下 p192～204, p205～219	無菌操作の原理を説明できる。 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(3)- -4, F-(2)- -6, F-(2)- -6	平野 剛
7	医療の安全管理 教科書：上 p164～187	処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -1, F-(2)- -2, F-(2)- -7	平野 剛
8	医療の安全管理 教科書：下 p164～168, 上 p188～192	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -4, F-(2)- -6	平野 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	患者情報の把握 教科書：下 p220～231	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。 基本的な身体所見を観察するための項目を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(3)- -1、F-(3)- -3、F-(3)- -4	高村 茂生
10 ） 11	患者・来局者対応 教科書：下 p20～22, 上 p58～60,65～66,83～ 89	患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を聞き取ることができる。 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について説明できる。 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -3、F-(2)- -4、F-(2)- -6、F-(3)- -9	早坂 敬明
12	服薬指導、患者教育 教科書：上 p61～64,71～75	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -7	櫻田 渉
13	服薬指導、患者教育 教科書：上 p90～93,241～244	妊婦・授乳婦、小児などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -2	高村 茂生
14	服薬指導、患者教育 教科書：上 p93～95	高齢者への対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(2)- -5、F-(2)- -2	早坂 敬明
15	医療機関におけるチーム医療 教科書：上 p5～7,12～14,29,30～ 37	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニックパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)- -1、F-(4)- -2、F-(4)- -3	早坂 敬明

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

受講態度(15%)、期末定期試験(85%)により評価する。

試験終了後に解説講義を行う。

態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。

### 【教科書】

- 「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本 上 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社
- 「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 調剤業務の基本 下 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社
- 「薬物治療学（改訂第12版）」吉尾 隆編 南山堂

### 【参考書】

- 「今日の治療薬」川合眞一、伊豆津宏二、今井靖、桑名正隆、北村正樹、寺田智祐編 南江堂
- 「第十四改訂 調剤指針」日本薬剤師会編 薬事日報社
- 「バザバ 薬学演習シリーズ 調剤学演習」小林道也、齊藤浩司、唯野貢司、千葉薫 京都廣川書店
- 「コンパス調剤学（改訂第3版）」八野芳巳、難波弘行、八重徹司編 南江堂

### 【備考】

適宜プリントを配布する。

### 【学修の準備】

- ・1～15回の授業では、予習として、講義範囲の教科書および関連項目を事前に読んでおくこと。（80分）
- ・1～15回の授業では、復習として、教科書及び配布プリント、講義ノートを活用して理解を深めること。（80分）

### 【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

F 薬学臨床

(2)処方せんに基づく調剤

- 【 処方せんに基づく医薬品の調製】
- 【 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】
- 【 医薬品の供給と管理】
- 【 安全管理】

(3)薬物療法の実践

- 【 患者情報の把握】
- 【 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】
- 【 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

(4)チーム医療への参画

- 【 医療機関におけるチーム医療】

### 【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

### 【実務経験】

平野 剛（薬剤師）、櫻田 涉（薬剤師）、早坂 敬明（薬剤師）、高村 茂生（薬剤師）

### 【実務経験を活かした教育内容】

教科担当の4名は、薬局・病院薬剤師としての豊富な実務経験があり、臨床における薬剤師業務の基本的な事項を講義する。